小中一貫教育校

大泉桜学園

平成 23 年４月、敷地が接していた大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校の立地を活かし、施設一体型の小中一貫教育校 大泉桜学園が開校しました。大泉桜学園では、中学１～３年生を７～９年生と呼んでいます。小学校と中学校の職員室をひとつにして、先生たち全員で１年生から９年生までの子供たちをともに育て、９年間を見通した教育を実践しています。

９年間を３期に区切って、子供たちを育てています

子供たちの発達段階に合わせて、１～４年生をⅠ期、５～７年生をⅡ期、８・９年生をⅢ期として、それぞれの時期に応じた「学び」を進めています。

● １～９年生合同の運動会

● ２年生と７年生の交流給食

● 新１年生と新７年生の合同入学式

５・６年生は、７～９年生と同じ校舎で 50 分授業を受けたり、社会と理科等で教科担任制を取り入れたりするなど、第Ⅱ期を重視した取組を進めています。部活動や児童・生徒会活動は、５年生から９年生まで一緒に活動しています。

また、第Ⅰ期のリーダーとして４年生が縦割り遠足や放送委員会、飼育委員会などで活躍しています。

異学年交流を積極的に取り入れています

入学式では、新１年生と新７年生が手をつないで一緒に入場して、４・９年生が迎えます。６年生と９年生の卒業式は一緒に行い、５・８年生が送ります。運動会や桜祭（音楽会）は、１年生から９年生まで一緒に行っています。５～９年生の飯ごう炊さん、ランチルームでの交流給食など、異学年交流を経験することで低学年が上級生にあこがれ、上級生は下級生の面倒を見るようになるなど、幅広い人間関係が育ってきています。

● ５～９年生合同の飯ごう炊さん

発行：練馬区教育委員会　教育振興部　教育企画課・教育指導課　電話（03）5984－1034

練馬区が進める

小中一貫教育

近年、子供たちの成長が早まり、小学５年生ころから思春期特有の心身の変化がみられるようになりました。また、中学校入学後の環境の変化に対応できずに不適応を起こす子供が増えています。

こうした状況に対応するため、練馬区では、小学校と中学校が学習指導や生活指導における連携を図り、９年間を見通した指導方針のもとで子供たちを育てる小中一貫教育に取り組んでいます。

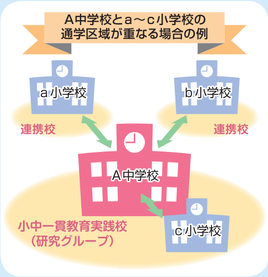
平成 23 年４月に、小中一貫教育校 大泉桜学園を開校するとともに、10 組の小・中学校（研究グループ※中面参照）を指定して、小中一貫教育の研究と実践を本格的に始めました。

研究グループでは、部活動体験や体験授業など児童・生徒の交流に加えて、小・中学校教員による９年間を見通した指導計画の作成や指導方法の研究など学習指導上の連携を行っています。

今後は、中学校区ごとに、中学校１校と小学校１～３校の組合せを決め、研究グループを順次増やして、全区で小中一貫教育を進めます。

小中一貫教育を研究・実践する小・中学校の組合せは固定的なものではなく、中学校と通学区域が重なる小学校のなかで、年度により連携先を増やしたり変えたりしながら取組を進めていきます。

研究グループとならない小学校においても、子供たちの交流などを行いながら、連携を深めていきます。



小中一貫教育Q&A

Q1 小中一貫教育を進めると、何が変わるのですか。

A1 小・中学校の教員が、義務教育９年間を通して児童・生徒を育んでいこうとする意識をもてるようになり、学力・体力の向上や人格形成が継続的に図られるなど、小・中学校の課題を改善するきっかけとなります。

Q2 小学校と中学校の校舎が離れているなかで、どうやって小中一貫教育を進めるのですか。

A2 小・中学校の教員が教科の教え方などを一緒に研究したり、小学生と中学生が交流したりすることで、小学校と中学校の教育をつなげていきます。

Q3 小中一貫教育を進めて、小学校と中学校を一つの学校（小中一貫教育校）にするのですか。

A3 小中一貫教育は、小学校と中学校の教育内容をつなげていく取組です。必ずしも小中一貫教育校をつくることが目的ではありません。

Q4 小中一貫教育を実践する小学校の子供は、連携先の中学校に進学しなければならないのですか。

A4 小中一貫教育は、特定の中学校への進学を誘導するものではありません。通学区域の指定や学校選択制の利用により、連携先以外の中学校に進学することもできます。

Q5 小中一貫教育の連携先以外の中学校に進学した場合、勉強の進み具合が異なるのですか。

A5 練馬区の小中一貫教育では、学習指導要領に準拠して学習しますので、どの中学校へ進学しても学習内容や進度の差は生じません。

Q6 小中一貫教育を実践しても、連携先以外の中学校に進学したら効果がないのではないですか。

A6 今後、区内のどの小学校においても、９年間を見通した学習指導や中学校との交流を工夫していきますので、連携先以外の中学校へ進学しても、中学校生活へ滑らかにつながる効果が期待できます。

2012

ねりまの小中一貫教育

平成 23 年４月、区内初の小中一貫教育校 大泉桜学園が開校しました。
同時に、10 組の研究グループ（中面参照）において、小中一貫教育の研究が始まりました。
練馬区立小・中学校で進めている小中一貫教育の考え方と現在の取組状況を紹介します。

● 中学校と小学校の先生が一緒に教える「乗り入れ授業」

● 中学生が小学生に教える「リトルティーチャー」

練馬区教育委員会

小中一貫教育の研究を進めている小・中学校のグループでの取組を紹介します

旭丘中・旭丘小・小竹小

小・中学校教員の協力指導による授業（算数乗り入れ授業）

旭丘小6年生が週1時間、旭丘中に行き、中学校の先生から算数を学びます。中学校での授業を体験することで中学校入学への不安解消につなげていきます。

旭丘小・小竹小の連携

小中一貫教育の実践では小学校同士の連携も大切であると考え、7月に着衣泳を、11月に移動教室の室内遊びを両小学校合同で行いました。

旭丘中へ

中学校で算数

移動教室の事前顔合せ

合同着衣泳

小中をつなぐ教科指導の研究

小中の滑らかな接続のために、国語の「読むこと」と算数の「分数」の学習にポイントを絞り研究を進めています。9年間で子供を育てていくという考えのもと、教科の連続性を意識した指導計画を作成しました。

豊玉第二中・豊玉第二小・豊玉東小

9年間の学びを連続して充実させる共同体としての小中連携の推進 ― 円滑な接続を目指して ―

小中の系統性を生かす授業

学習内容の系統図を全教科で作成し、小中一緒に「分かる授業」づくりに取り組んでいます。

合同研究授業

問題解決的な学習

理数教科を中心に問題解決的に学ぶ授業に取り組み、児童・生徒にとって「魅力ある授業」で学力向上を推進しています。

「小中連携教室」イメージ

小中一貫教育プログラム

豊玉第二中の新校舎に「小中連携教室」ができます。小学校の授業、児童・生徒の交流、小中合同の行事等、多様な学習活動を取り入れた教育プログラムを研究しています。

練馬中・春日小

4つの分科会で教科指導の研究

本グループでは、「生きる力をはぐくむ小中連携教育」を研究主題とし、9年間を見通した教科指導の研究に取り組んでいます。「言語分科会」「理数分科会」「社会生活分科会」「体育・芸術分科会」のいずれかに両校の全教員が所属し、小中合同で8回の研究授業を行ってきました。また、分科会では、研究授業で行う教科で課題となっていることを共有し、その課題を改善するための系統立った指導計画を作成しました。

理数分科会授業

体育・芸術分科会授業

児童・生徒の交流

中学校生徒会が小学校へ訪問して中学校を紹介したり、書き初め展に互いの作品を展示したりするなどの交流をしています。

豊渓中・旭町小

小中連携で多くの交流

隣接校である利点を活かし、体験授業、部活動体験、出前授業、学校見学、合同クリーン運動、合同音楽授業等さまざまな連携を行っています。

ノートを持ち寄って意見交換

テーマ「表現力の育成」を共有した実践

旭町小で力を入れている「ノート指導」（課題や計画、取組、友人の良い考えやまとめ、感想を記す）を豊渓中でも活かすよう、継続的な「ノート指導」を小中合同で研究しています。

小中で「身に付けさせたい力」を共有し、9年間で論理的に思考・判断・表現できる児童・生徒の育成を目指します。

＜算数・数学＞　自分の解き方と友達の考え方も書き、誤答の原因を解明するなど、ノート作りを意識して指導しています。

＜理科＞　「ノート指導」を活かして、実験の授業では予想レポートを作成し、発表や討論を実施しています。

光が丘第一中・光が丘四季の香小

私たちが目指していること

児童・生徒・教師間のコミュニケーションを豊かにしよう！

取り組んでいること

- ○小中共同授業（小中共同で作成した授業計画をもとに、小中それぞれで連携して行う授業）
- ○中学生の「ミニ先生」による支援
- ○小学生への学校紹介、部活動体験
- ○小中作品交流、メッセージ交換
- ○小中合同あいさつ運動
- ○小中教員のスポーツ研修

中学生の「ミニ先生」大活躍！

こんな成果が出ています！

児童・生徒は… 小学生と中学生のかかわり合いが深まり、小学生は中学生へのあこがれを、中学生は自己有用感をもち、ともに学習への関心意欲や表現力を高めました。

教師は… 小中9年間を見通す視点をもち、児童・生徒理解を深め、授業改善を進め、小中教師間の連帯感が高まりました。

光が丘第三中・光が丘夏の雲小

地域とつながるあいさつ運動

交流活動の一つとして、小学校の児童と中学校の生活委員の生徒が「ふれあい月間」の活動で、共に通学路に立ち、あいさつ運動を行っています。秋のあいさつ運動では、地域の皆さんも一緒に取り組んでもらっています。

小中合同のあいさつ運動

授業参観による小・中学校教員の相互理解

体育・保健体育分科会では「ボール運動」、算数・数学分科会では「関数」の分野に焦点をあてて児童・生徒の課題を話し合い、互いに授業参観を行っています。どのように教えれば児童・生徒の力が伸びるかなどについて、小・中学校の教員が意見交換し、小学校から中学校への系統性を考えながら、授業の進め方や教材の使い方に工夫を重ねています。

石神井南中・下石神井小

継続11年、全教科で課題改善カリキュラムと配慮点集を作成

小中の学区域がほぼ同じである良さを生かし、中学で授業のない定期考査日の午後に小・中学校の教員が協力して小学生の指導を行うなど、無理のない連携を続けています。

全教科で課題改善カリキュラム（注）と授業の配慮点集を小中合同で作成し、中学校ではきめ細かな授業づくりに活かし、小学校では中学につながる授業づくりの拠り所としています。

小中一貫教育を進める学校経営

教育目標、学校組織、生活時程、年間計画、PTA地域連携、学習規律、生活指導に配慮し、顔をあわせて率直に話す人間関係を大切にして、小中一貫教育を進めています。

中学夏季補習で
小学校教員の協力指導

地区祭の模擬店
小中教員合同参加

校長交流朝会

上石神井中・上石神井小

小・中学校教員の協力指導による授業（乗り入れ授業）

上石神井小・上石神井中では、体育の授業に対する意欲と体力の向上を目的として、4月より中学校の保健体育科の教員と小学校の教員の協力指導による授業（乗り入れ授業）を毎週火曜日の1～3時間目に6年生の3学級で実施しています。

中学の先生の模範演技

毎週1時間の授業ですが、児童も中学校の教員に慣れ、今まで以上に楽しく体育の授業に取り組んでいます。

中学生が小学生を教えるリトルティーチャー

よりスムーズな小・中学校の接続を目的として、平成17年度より、中学生が先生役になって小学生に教えるリトルティーチャーの授業を実施しています。小・中学校の教員が共同で指導案を作成し、事前・事後の指導も協力して行います。中学1年生と2年生で計2回、全員がリトルティーチャーを経験します。

三原台中・泉新小

研究の概要

「主体的に学び活動する児童・生徒を育成する小中連携教育」を進めるために、カリキュラム編成委員会（算数・数学、体育・保健体育）、授業交流分科会、児童・生徒交流分科会、特別支援教育分科会という5つの組織を作って研究を進めています。

合同研究協議会

算数・数学カリキュラム委員会

分数、図形を研究の柱にすえ、算数・数学の指導内容の関連や系統性を再確認し、相互の授業を見学する機会や共同協議の場を設けて小中で研究を深めています。

特別支援教育分科会

実施日を定例化し、構成メンバーに学校巡回相談員、心のふれあい相談員を加えることで、意見交換が深まり、小中の情報共有もスムーズになっています。

合同研究授業（算数）

八坂中・八坂小

食育の小中連携

「自ら進んでよりよい食生活を目指し、実践していく児童・生徒の育成」をテーマに各教科の中で食育として扱える教材の発掘・実践を小中連携で行っています。

地産地消を意識し、小中連携・地域連携の中で八坂地区の児童・生徒を育てていくことを目指しています。

小中連携の親子料理教室

小・中学校教員の協力指導による授業（乗り入れ授業）

算数・数学の授業では、習熟の度合に応じたクラス編成や小グループによる話し合い活動等を行っています。今年度から、中学校教員が小学校の算数授業に入る『乗り入れ授業』を始めました。『乗り入れ授業』で小・中学校の教員が一緒に授業研究を行うことにより、学力向上につなげます。

（注）課題改善カリキュラム… 児童・生徒の課題を改善するための指導計画